平成27年度「全国学力・学習状況調査」における
折尾東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，算数，理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・ 身につけておかなければ後の学年等の学 習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用で きるようになっていることが望ましい知識・技能	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践 し、評価・改善する力

⑵ 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

折尾東 小学校 「平成27年度　全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査（国語A・B，算数A・B，理科）結果

		国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	理科
平成２５年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成２６年度 （理科：平成24年度）	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成２７年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度よりも差は縮まった。 ・読解力を問う問題に課題があり、想像しながら音読する習慣を身に付ける必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を読む問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	登場人物の相互関係を捉える問題は、正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率は下回ったが、目的に応じて読み取ることはできていた。 ・自分の考えを書くなど記述式の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読するときの工夫とその理由を書く問題は、無解答率が高かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率は下回ったが、四則計算は基礎ができていた。 ・図形領域の問題の正答率が低かった。特に、円や二等辺三角形の性質が十分に理解できておらず、重点的に指導する必要があった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	除数が整数である場合の分数の除法の計算をする問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ問題は、正答率が低かった。	

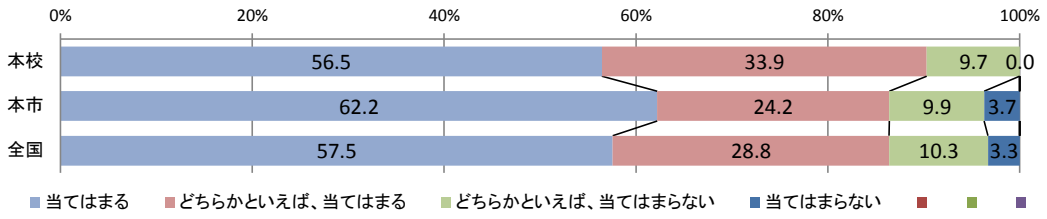
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度よりも差は縮まった。無解答率が低く、応用問題に対しても、苦手意識をもたず、粘り強く取り組むことができるようになった。 ・正しい求め方を書くなど記述式の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを選ぶ問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見いだし、その図形の性質を記述する問題は、無解答率が高かった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていたが、器具の名称など知識理解は基礎ができていた。 ・回答したわけを書くなど記述式の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示された器具（メスシリンダー）の名称を書く問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、そのわけを書く問題は、正答率が低かった。	

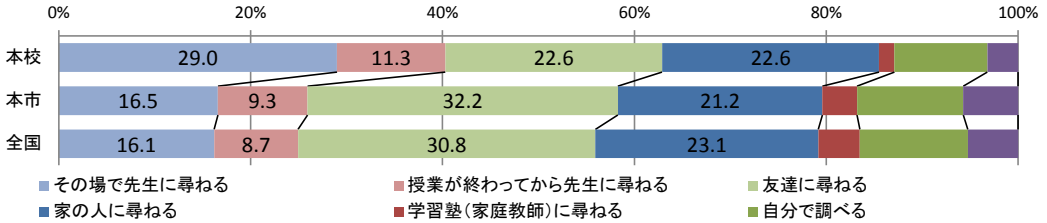
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

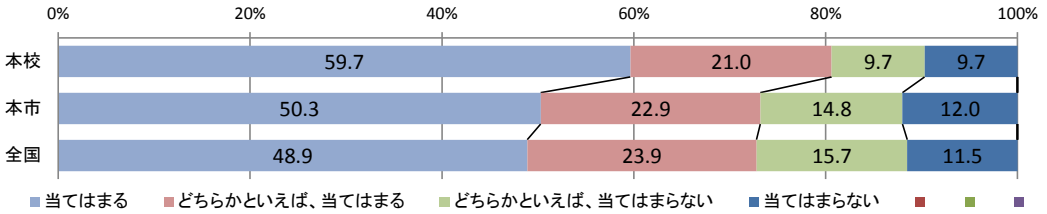
41
授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。



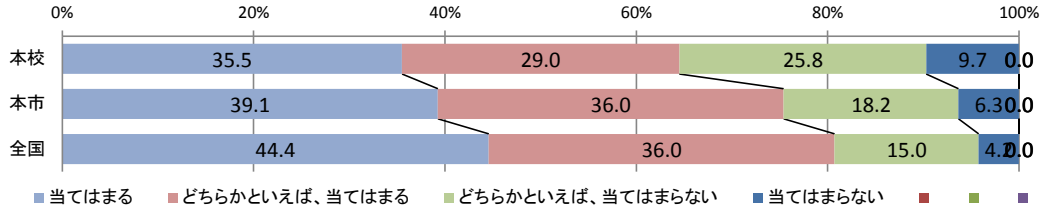
47
授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。



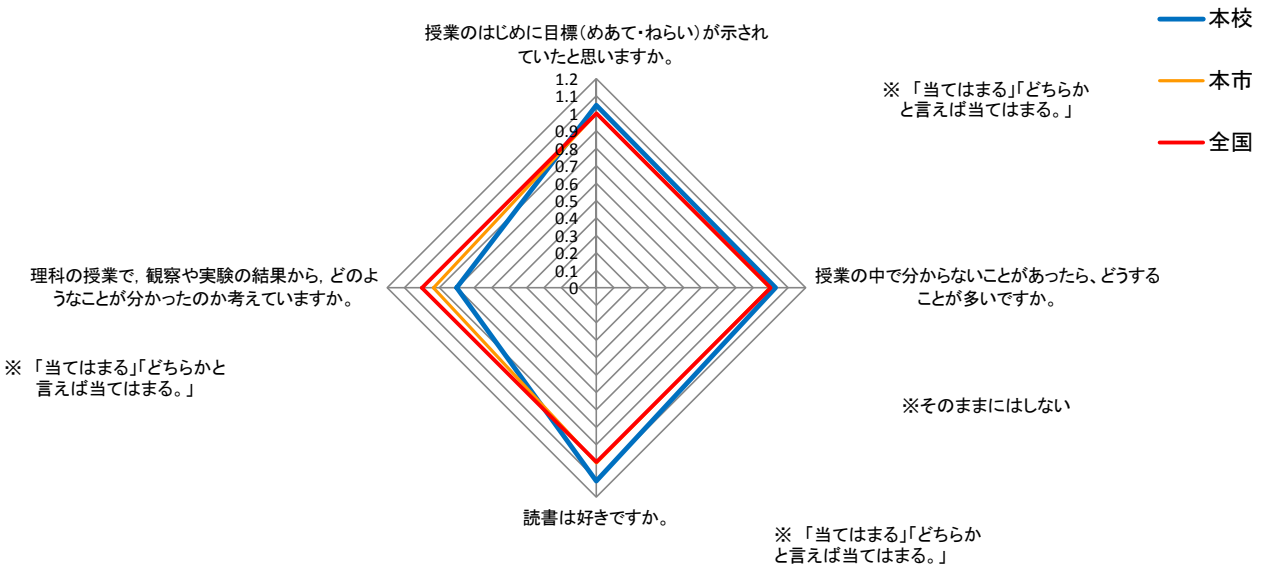
51
読書は好きですか。



80
理科の授業で，観察や実験の結果から，どのようなことが分かったのか考えていますか。



④ 本校と本市の対全国比（全国を1とする）



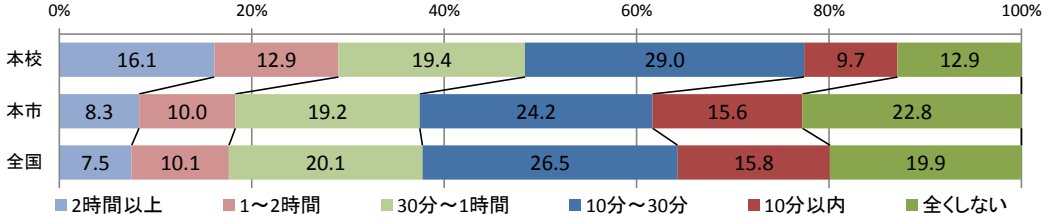
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・授業のはじめにめあてが示されていたと答えた児童は、全国を上回っている。全校で取り組んでいる成果がでてきている。
・読書が好きと答えている児童は、全国を上回っており、その差が広がっている。10分間読書を継続的に行い、楽しさを味わうことができている。
・理科の授業で、観察や実験の結果から分かったことを考えている児童の割合は、全国と比較して低かった。結果が出た後に、分かったこと（考察）をノートに書くという学習の流れをパターン化していく必要がある。

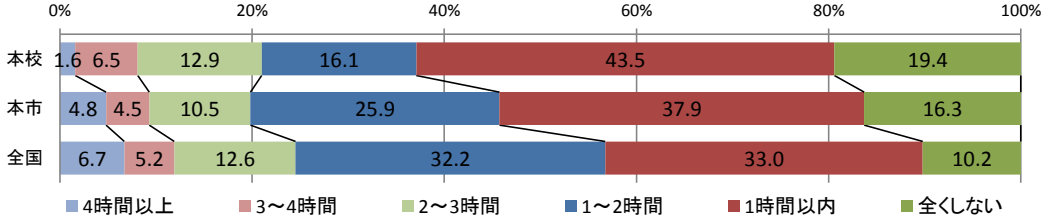
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

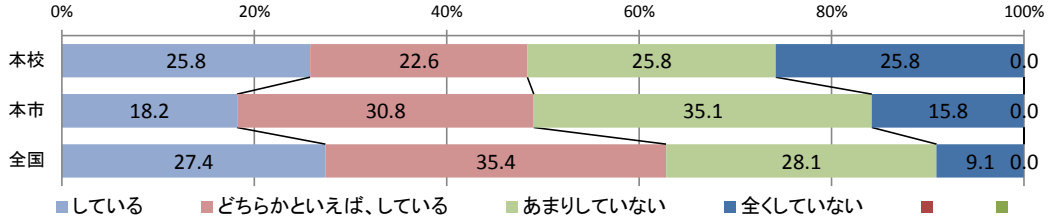
質問番号	質問事項
16	学校の授業時間以外に，普段(月曜日から金曜日)，1日当たりどれくらいの時間，読書をしますか。(教科書や参考書，漫画や雑誌は除きます。)



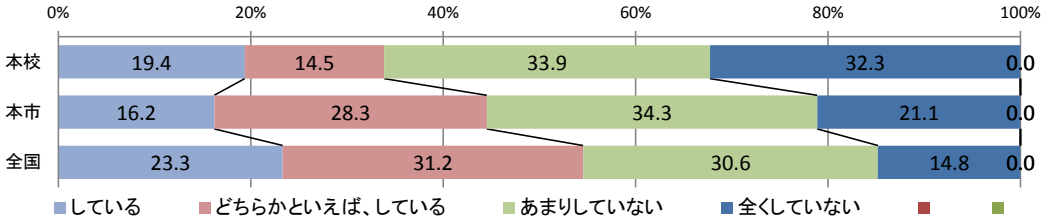
14
土曜日や日曜日など学校が休みの日に，1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。)



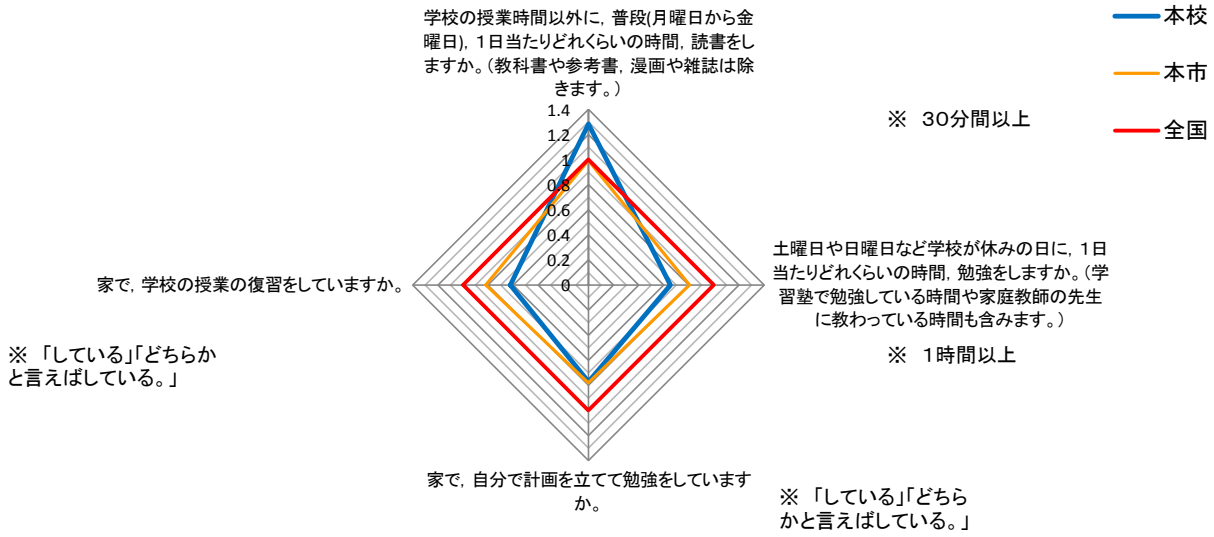
20
家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか。



23
家で，学校の授業の復習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



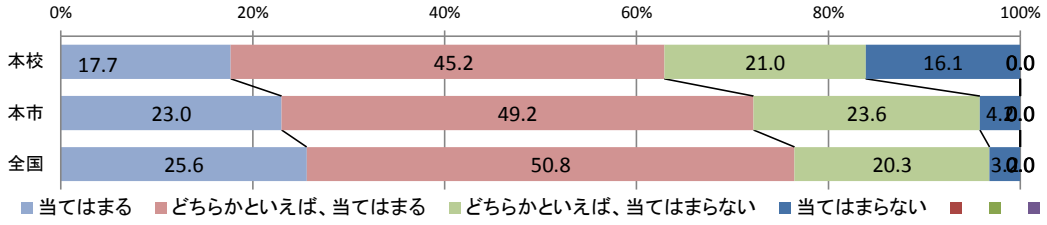
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・1日に30分以上読書をしている児童の割合が全国と比べて高く、その差が広がっている。読書の習慣が身に付いてきている。
・学校が休みの日に勉強を全くしない児童の割合は変化が見られず課題である。「折東スタンダード」に示してある45分間の勉強時間を確保できるように家庭へ啓発していく必要がある。
・家庭学習の時に、計画を立てたり、復習をしたりしている児童の割合が減少傾向にあり、全国との差が広がっている。「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用した自主学習の取組を促す必要がある。

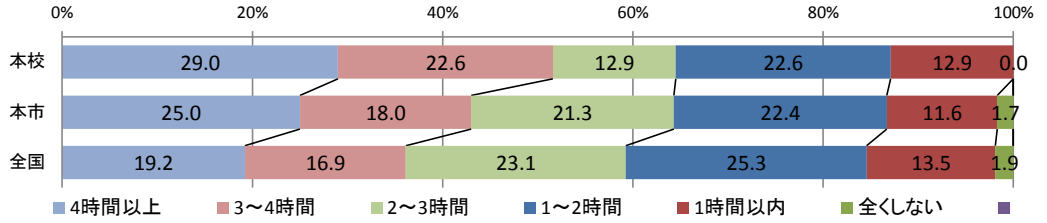
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

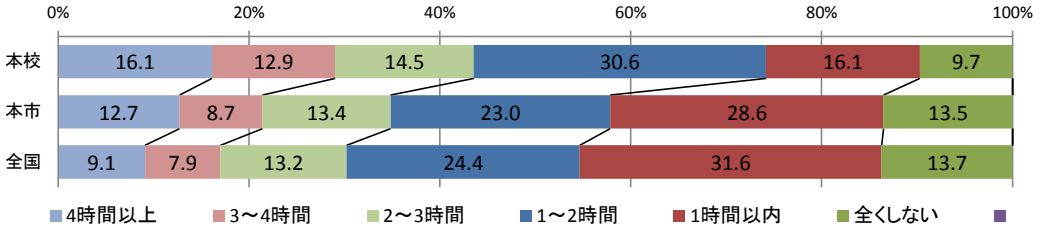
5
難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか。



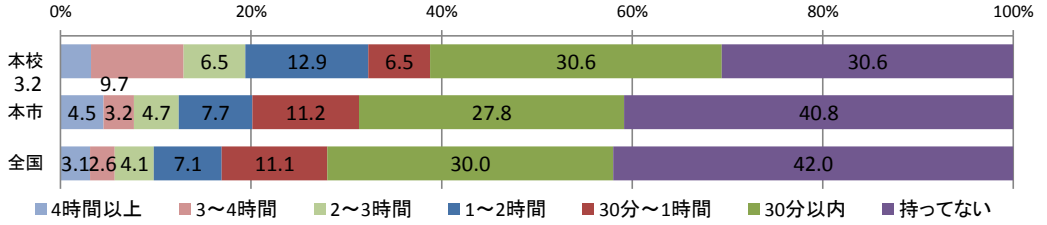
10
普段(月曜日から金曜日)，１日当たりどれくらいの時間，テレビやビデオ・DVDを見たり，聞いたりしますか。(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間，テレビゲームをする時間は除きます。)



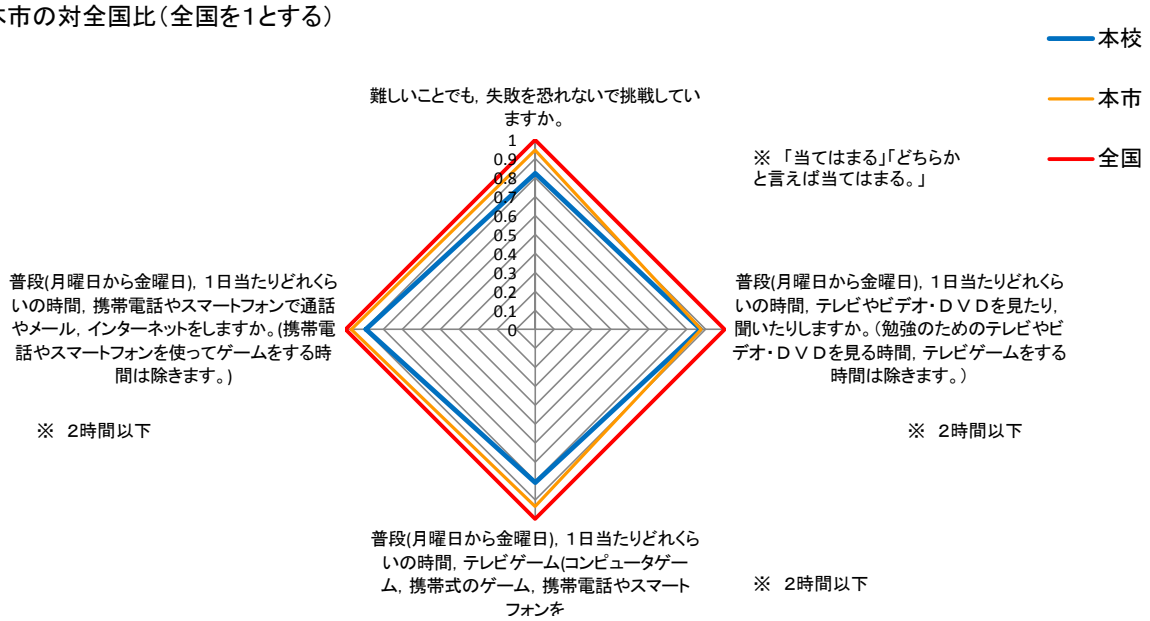
11
普段(月曜日から金曜日)，１日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム(コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか。



12
普段(月曜日から金曜日)，１日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます。)



⑤ 本校と本市の対全国比（全国を1とする）



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・難しいことに挑戦している児童の割合が、減少傾向にあり、全国との差が広がっている。活動の目的や意義を伝え、意欲を高めていくことが必要である。また、日頃から成功体験を積ませ、達成する喜びを味わわせていくことも必要である。
・テレビやビデオの視聴、テレビゲームやインターネットの使用等、１日２時間以上であると回答した児童の割合が全国と比較して高かった。１時間以上も含めると、その差はさらに広がっている。

３．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組（全校・学年・学級・教科毎の取

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・理科学習では、①めあて②予想③実験・観察④結果⑤結果から分かったこと・考えたこと⑥まとめの流れをパターン化し、全校で共通理解、共通実践していく。 市販の理科学習ノートでは、結果から分かったこと・考えたことを書く欄が設定してあるため、引き続き活用していく。
・毎週、朝自習の時間に全校で10分間読書を行ったり、図書の学習時間を確保したりしている。また、隔週の朝自習の時間に「ひまわり」暗唱を行っている。これらの取組については引き続き行っていく。読解力をさらに高めるために、登場人物の気持ちや場面の情景などを想像しながら読むように指導していく。
・各教科の学習では、引き続き、毎時間、学習のめあてを設定していく。１時間１時間、めあて意識をもたせた授業づくりを全校で推進していくことで、児童の学力向上を図っていく。
・各教科の時間などに、自分の考えを書く活動を位置付け、積極的に取り組んでいく。
・引き続き、毎週月曜日の朝自習の時間に国語のアシストシート、火曜日に算数のアシストシートを全校で行う。落ち着いた雰囲気で集中して取り組むことができるように指導していく。
・学期末に、全学年、個に応じた習熟度別学習を実施する。１学級を4分割程度に分け、担任と担任外の教員で指導にあたる。
・引き続き、１年生児童を対象にMIM（多層指導モデル）学習を行う。朝自習の時間などに、動作化やプリント学習を行っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・静かな環境のもと、低学年は15分、中学年は30分、高学年は45分以上、毎日家庭学習に取り組む。
・復習などの宿題が終わった後は、「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用した自主学習に取り組む。宿題及び自主学習の点検は、保護者と担任が行う。
　以上のことを児童に指導するとともに、通信や懇談会等で保護者に啓発する。

・「北九州市家庭学習マイスター賞」の募集を9月下旬に行い、家庭学習の意欲を高めたり、充実を図ったりする。

・希望者による「放課後塾」を引き続き実施し、自主学習の習慣化を図っていく。

・懇談会等で、全国学力・学習状況調査の結果と取組を保護者に説明し、家庭と連携し協力体制を整える。